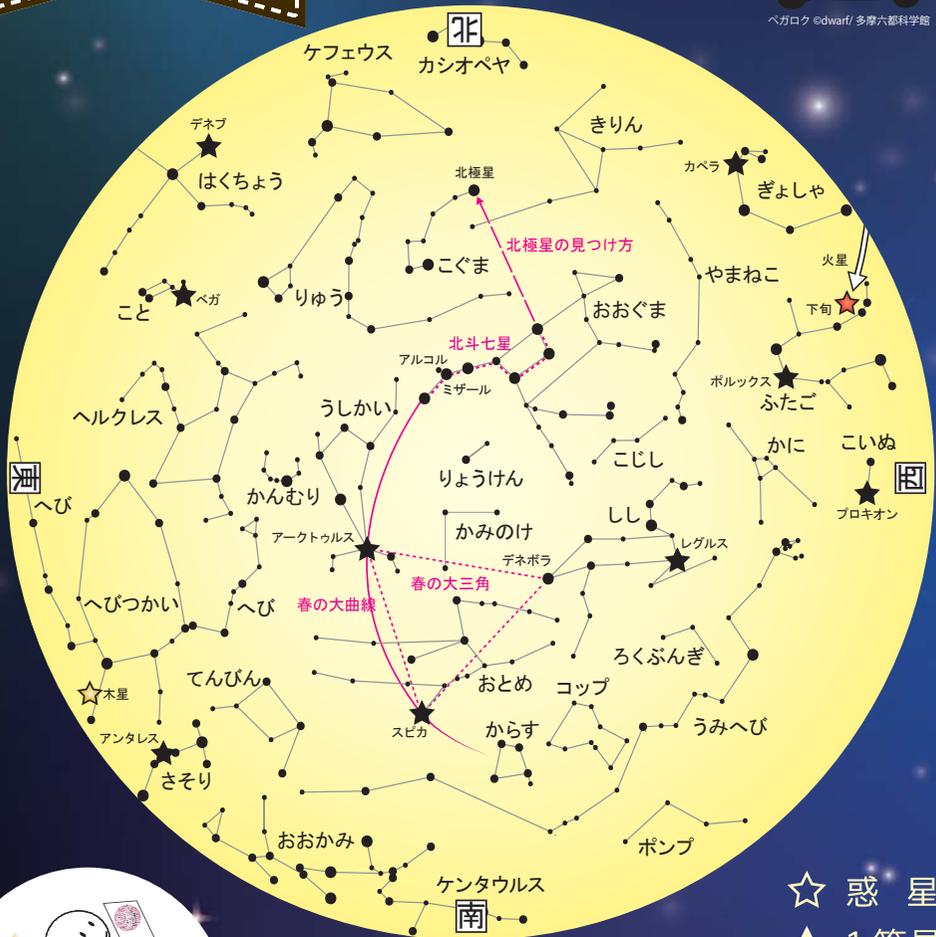


5月の星空

上旬：22時頃
中旬：21時頃
下旬：20時頃



ベガロク ©dwarf/多摩六都科学館



星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせてみてください。
(空と重ねると東西の向きが正しくなります)

- ☆ 惑星
- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

2019年 5月のおもな天文現象

- 5/2 月と金星が並ぶ(日の出前、東の低い空)
- 5/5 新月
- 5/6 立夏
- 5/8 月と火星が並ぶ(夕方、西の空)
- 5/12 上弦
- 5/19 満月
- 5/20 月と木星が並ぶ
- 5/22 月と土星が並ぶ(夜遅く~23日の明け方)
- 5/27 下弦

おおぐま座

しっぽにあたる^{ほくとしらせい}北斗七星は、春がいちばん見やすい季節です。しっぽの先から2番目の星をよく見ると、2つの星がよりそって輝く姿が見られます。明るい方は「ミザール」、暗い方は「アルコル」といいます。星が見分けられるかどうかで、視力をはかっていたという話もありますよ。見えないうきには、^{そうがんきょう}双眼鏡をつけてみましょう!



ワンポイント
星座★

今月のポイント

生解説プラネタリウムのみどころ



アポロ計画は、今から50年前にアメリカNASAがおこなった有人月探査計画です。
「人を月へ送り、無事に地球へ帰還させる。」
計画自体はとてもシンプルです。しかしこの計画全体にかかった費用は、現在の日本円に置きかえると十数兆円、関わったスタッフは数十万人という、途方もない規模でした。
この壮大な計画は一体なぜ始まったのか。そして、どうやって人を月へと送ったのか。アポロ計画をたっぴりと紹介します。

大きな星座・小さな星座

現在使われている88の星座は、1928年に定義されたものです。このときに星座について定められたのは絵や星の結び方ではなく、星座の領域を区切る「空の境界線」でした。また、境界線で囲まれたそれぞれの星座の領域は、古くから使われてきた星座の姿を残すように考えられたため、大きさも形もさまざまです。
春に見ごろを迎えるうみへび座やおおぐま座、おとめ座などは88星座の中でも大きな星座たち。とくにうみへび座は、視野に収まらないほど東西に長くのびています。星座の姿を想像したり、実際に星を結んだりして、その大きさを体感してみてください。